

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハビール山教室			
○保護者評価実施期間	2025年7月25日 ~ 2025年8月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51名	(回答者数)	43名
○従業者評価実施期間	2025年7月25日 ~ 2025年7月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年9月1日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	その日のお子様の体調や気持ちの状態に合わせて、支援内容を柔軟に変更していること。	お子様の来所時に視診をするとともに、普段との違いなどがある場合は職員間で共有している。 個別支援計画に基づいて支援プログラムを作成するが、お子様の様子によって難易度や量などを随時調整するようしている。	お子様の気持ちの変化が生じやすい園での行事前後や長期休暇明けには特にお子様の状態に留意するとともに、必要に応じて保護者様や園の先生との面談の時間を設けていく。
2	保護者様が支援をモニターで見学できるようにしているとともに、支援後にフィードバックの時間を設けることで、保護者様に支援内容を丁寧に説明していること。	モニターでの映りも意識した環境設定をおこなっている。また、お子様の小さな表情の変化や微細運動の様子など画面越しで伝わりにくいものに関しては、フィードバック時に伝えるようにしている。	必要に応じて同室で支援に参加していただきながら、指導員からリアルタイムで支援内容の説明や解説などをおこなっていく。
3	アセスメントや家族支援の機会や時間の確保に努め、丁寧な聞き取りと記録の作成をおこなっていること。	支援内容やお子様の様子を支援後・終礼時に共有するとともに、記録を細かく残すことで、次回の支援時での留意点を引き継げるようしている。	家族支援などの時間の確保ができる場合は、あらかじめ対応可能な日時を保護者様に公開し、スケジュールの調整がしやすくなるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	インクルージョン面の支援サービスを充実させていくこと。	並行利用や移行に向けた支援をおこなっているものの、面談や連携の頻度は多いと言えないため、適宜通園先などと連携し、実状の把握と今後についての検討をおこなっていくことが求められる。	児童発達支援、幼稚園、保育園、こども園、行政等がそれぞれ独立してサービスを提供しているため、基幹となる施設を中心に連携をおこなえるよう情報交換や連携を通して仕組みづくりをおこなっていく。
2	保護者会等の機会を増やしていくこと。	就学に向けた説明会や保護者参加型のイベントはおこなっているものの、茶話会などの交流をメインとしたイベントの企画をしていく必要がある。	年齢・発達段階・ニーズ・進路等に合わせた様々な会を検討し、時期もあらかじめ決めて父母会等を実施していく。次年度のイメージもできるように、聞き取った内容については個人情報に留意したうえで開示し情報提供をおこなっていく。
3	地域との交流を増やしていくこと。	地域への療育の周知活動という面も含めて交流をおこなっていくことが求められるが、交流のためのノウハウの蓄積が課題となっている。	地域との交流ができるようなイベントを企画していく。また、地域で開かれている催し物にも積極的に参加していく。